

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895  
FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

### 時流にのる者は時によって滅ぶ

1. 「君子はよく時中す」。東洋古典の名著「中庸」にある言葉である。原文は「君子而時中」。安正正篤師によれば、「而」は「して」と普通は読むが、明代の大学者愈曲園はこれを「能（よく）」と読むべきと注釈している、という。さらに「中」には相対立しているものを統一（相結ぶ）して一段高いところへ進むという意味と同時に「あたる」という意味がある、と説明している。
2. 立派なリーダーはその時その場にふさわしい手を打ち、あらゆる矛盾、相剋を克服してどこまでも進歩向上していく。これが「君子、時中す」の意味である。「時中」はリーダーに求められるもっとも重要な資質と言える。
3. 「人生に生かす易経」の著者・竹村亜希子氏は、「時流」と「時中」の違いを述べられている。時流は現象としてあるもの。だが、「易経」は時流を重んじない。いやむしろ時流にのる者は時流によって滅ぶという。君子は時流にのってはならない。時中しなければならない。春種をまけば、秋に実がなる。冬に種をまいても実は結ばない。冬は種をまく時ではなく、土を作る時である。時の変化は限りないがどんな時にも「時中」はある。それを見極め、時中していきたいものである。（参考：「致知」2014年1月号）

## 経営者のための経済学

### 過去最大の貿易赤字の意味

#### 野口悠紀雄（早稲田大学ファイナンス総合研究所顧問）

1. 2013年度上半期の貿易収支は4兆9892億円の赤字となり、年度半期ベースで過去最大を更新した。9月の貿易赤字は、1兆円に近づいた。このペースが続けば、年間10兆円を越す赤字となる。リーマンショック前には、日本の貿易収支は、年間10兆円ないしそれ以上の黒字だった。それがほぼ同額の赤字に転じたわけだ。このことの意味は大きい。
2. 赤字拡大の原因は、中期的には鉱物性燃料の輸入増加である。しかし、この1年程度を取れば、輸出の伸び悩みの影響が大きい。金融緩和で期待されるのは円安である。そして、円安で当然期待されるのは、輸出の拡大と貿易黒字の拡大である。それが経済活動を拡大させる。ところが、それが起こっていないのである。これは、ムアベノミクスが实体经济を改善していないことを示す最も重要な証拠の一つだ。

（参考：「週刊ダイヤモンド」：2013年11月9日号）

## 経営者のための営業学

### 「3日で修理」の理念で躍進

1. 電動工具メーカーのマキタ（愛知県安城市）は、世界シェアで約20%を握り第2位。国内ではトップを快走し、売上高営業利益率は14.6%という高収益体質を維持する。マキタが支持される理由として「世界中どこの地域であろうと、何が何でも3日で修理」という方針のためではないかと言われる。方針を貫くためには多少のコストアップなど気にしない。その象徴が拠点の数。世界で四十数カ国に進出しているが、いずれの国でもマキタはサービス窓口を細々作る。
2. ライバルから何でそんなに拠点を持つのかと不思議がられるが、「3日で修理」を掲げる以上、顧客である金物屋さんの近くに拠点を置いていくしかない。今も昔もマキタのユーザーは職人。「3日で修理」の方針は、職人たちを相手に迅速な修理を必死に心がけてきた結果、おのずと生まれた。

（参考：「日経ビジネス」2013年11月4日号）

## 古典に学ぶ

### 「道」とは何か

（解説）つねに対立する状態を含み、対立する状態へと転じようとする。それが「道」の運動法則である。つねに消極を守ることによって、限りない積極に通ずる。それが「道」の作用の形式である。万物をその根元へ遡って行けば、「有」すなわち物一般に到達する。その「有」のさらなる根元となるのは、「無」というよりは表現しようのないあるものである。それは本体としての「道」である。

（参考：奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」：徳間書店）